

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2012年12月号 通巻48号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキの個体識別に挑戦してみる

明治神宮で多数の人々に目撃されたタヌキを題材に



判別のポイントを手描きで簡単にスケッチしてみた。左から「エム」「デコクロ」「クサビ」。眼の近くの模様も同時に判別の基準になる。

今年、明治神宮では昼間にタヌキがよく目撃されました。東京タヌキ探検隊！にも目撃情報が寄せられただけでなく、新聞のコラムにも載ったため、目撃者はとても多かったのかもしれないと気づきました。そこでネット検索をしてみると、いくつものブログに記されていました。特にハナショウブが見ごろになる6月は訪問者も多かったらしく、ブログの記事も集中しています。

識別の素材は十分！

ブログの写真をしていると、同じ個体が何度も写っていることがすぐにわかりました。毛並みから今年生まれの子どもではないのは明らかですし、体格が小さい子タヌキの目撃もありませんので、どうやら同じタヌキが付近に居着いているようです。ブログ掲載の写真はかなり多くあります。これだけの素材があれば個体識別も不可能ではありません。

タヌキは同時に最大3頭が目撃されています。本来は夜行性であるタ

ヌキが昼間活動するのは珍しいため、この3頭はいつも同じ個体と仮定してもいいでしょう。

私が最初に気づいたのは、額に「M」字模様がある個体でした。名前を「エム」としましょう。エムの模様ははっきりしているので識別も簡単です。さらにじっくりと見ていくと、模様ははっきりしないが額が黒い個体と額にくっきり縦線が見える個体が判別できるようです。それぞれ「デコクロ」「クサビ」と名付けることにします。ひょっとしたらもう1頭いるのかもしれませんが、確実な判別はできませんでした。

登場頻度が高いのはエムです。人間をあまり警戒しない性格なのかもしれません。クサビはあまり写真には写っていません。

どこに注目して識別するか

タヌキを個体識別する時にはこのように顔の模様注目します。特に額、眼のまわり、鼻先がポイントになります。顔は季節にかかわらず毛

は短めで安定しているからです。胴体は季節によって毛足の長さが変わるため模様が一定しません。ただ、顔にはっきりとした特徴がないことも多くあります。また今回の場合、判別しにくい角度からの撮影だったり、写真の解像度が足りなかったりなどで識別ができない例はかなりありました。個体識別はなかなか難しいものなのです。

本やネットの画像からはタヌキの模様にはいろいろなバリエーションがあることがわかりますが、親子兄弟ではそれほどはっきりとした模様の違いはありません。確実にわかりやすい個体識別方法の研究はさらに続けなければならない課題です。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>